

コースの先生ってどんな人？

経済学部経済学科 木田聖和/塘章吾

(兵庫県立 淡路三原高等学校出身/大阪府立 北かわち皐ヶ丘高等学校出身)

木田：「ここでは対話形式で話したいと思います。というのは、私、木田と塘は、2人そろって第1志望の同じ会社に就職が決まったからです！で、何話す？」

塘：「それが問題や。コースの指導教員の大谷先生からは、『オリジナリティーのあるアピールをされたい』ってお願いされてるからな」

木田：「『されたい』ってよく言いはるよな(笑)。上キヤリといえ、学業・就活成果なんやろうけど、それについてはみんな書いているもん」

塘：「じゃあ、その要因について話すのはどう？大谷先生にポイント絞って書いたら、オリジナリティー出るやろ」

木田：「それにしよう。でも、内容によってはキレられそうやけど、まあええか(笑)。じゃあ、聞くけど、大谷先生ってどんな人？」

塘：「ONとOFFの区別がはっきりしている人かな。もちろんONの時は講義中で、大学で一番厳しいんちゃう。遅刻・欠席は禁止やし、礼儀・マナーにもかなりうるさいし」

木田：「OFFの時は、めっちゃ気さくで面白いよな。たまにジェネレーションギャップ感じるけど(笑)。基本、学生とワイワイするの好きやよな」

塘：「あと、学生思いやと思う！成績が伸び悩んでいた時も、就職活動で困っている時も親身になって話を聞いてもらえた。てか、向こうからがんがん電話かけてきてくれたし。よいしょするわけじゃないけど、大谷先生に助けてもらったからこそ、今の自分があるんやと思う。これは絶対事実！」

木田：「俺も全く同じこと思ってた！大谷先生じゃないと、無理やったよな。先生は、口先だけの学生思いじゃなくて、行動・実績が伴ってるんよね。だから、めっちゃ厳しくても、みんな付いていくんちゃうかな？実際、俺ら先生のこと好きやし、先生も俺らのこと好きやよな？」

塘：「間違いないやろ。ただ、先生のやり方が向いてる人・向いていない人も当然あるよな。その点についても、話しておかへん？」

木田：「いいね。それ気になる人多いんちゃうかな」

塘：「向いてる人は、コースの一員としての自覚を持ち、メンバーで団結して自分たちの夢に向かって努力し続けられる人かな。逆にいうと積極性、協調性、コミュニケーション能力に欠ける人とか、覇気がない人には向いていないと思う」

木田：「要するに、体育会気質・運動部気質なら大丈夫ってことやんな。俺もいわせてもらうと、自分の行動に責任が持てる人は向いていないと思う。やるといったことをやらなとか。やっておけといわれたことをやっていないとか、知らなかったといいわけするとか」

塘：「それ一発アウトやろ(笑)。いいわけが多い人は 100%無理やな。先生がキレる前に、
そもそもコースに居づらくなると思うわ・・・」

木田：「偉そうにいうつもりはないねんけど、上キャリって、これまでの自分を改めてラストチャンスに賭けるって固く誓った人が来る場所やん。それやのに、これまでと同じことやってるようでは戦力にならんよな。てか、落第するだけやねんけど」

塘：「そのノリでいうと、上キャリって、自分自身でしっかりと判断した上で参加するところやん。それやのに、そもそもこの HP を隅から隅までみてないとかも、大丈夫か？って思ってしまう。例えば、上キャリ名物・課外特別講義には、メンバーのほぼすべてが参加するねんけど、それを知らんままにコースへの参加を希望するとか論外やろ」

木田：「確かに。これを読んでいる皆さんに説明しておく、課外特別講義とは放課後や夏休みなどの長期休暇中に、大谷先生のボランティアで実施されるもので、なんと無料となっています！！」

塘：「これを聞いて、『めんどくさ〜』って思った人には、上キャリ向いてないやろうな」

木田：「実は俺、ちょっとそう思ってんけど(笑)」

塘：「お前、最悪やな」

木田：「でも実際、参加してみたら合宿とかもあるし、先輩と仲良くなれる機会もあるし、かなりおもしろかった！じゃあ、そろそろ話まとめてや」

塘：「では。これを読んでいる君に伝えたいことは、この 4 年間でどう生きるかによって、未来が変わるってことやな。4年間でバイトや遊びに費やすというの、1つの生き方やとは思。でも、4年間で将来のための自己投資に費やし、就職後の 40 年間を楽しく・有意義に生きるっていうのもかなり魅力的やと僕は思うんよね。どちらを選ぶのかは、君次第やけど」

木田：「最後にカッコええこといったな〜。ということで、みなさん、くれぐれも HP はしっかりと読んでおくようにね。一度きりの大学生活です。しっかりと考えて悔いの選択をしてください」